

今夏の清掃工場の発電による電力供給（送電）増量について

当組合の20の清掃工場ではごみ焼却による発電で所内の使用電力をまかなうとともに、残った電力を電気事業者に供給（送電）しています。

この夏に予想されている東京電力管内の電力需給逼迫に対して、当組合の清掃工場では次の3つの取組でこの電力供給の増量を図ります。

これにより、電力需要ピーク時間（おおむね午後1～3時）に本年度の当初計画に比べ、最大で約4.4万kW（約11万世帯相当量[※]）増量させ、このとき、清掃工場全体では約9.6万kW（約24万世帯相当量[※]）の電力を供給します。

※ 1世帯の平均消費電力0.39kW（電気事業連合会の資料より算出）

- 1 灰溶融停止 期間：7～9月
電力消費量の大きい灰溶融施設を停止して平均で約0.8万kW電力供給を増やします。
なお、この間に発生する焼却灰等については適正に処理し、埋立処分します。
- 2 集中焼却 期間：7月中旬～8月中旬
補修工事の時期を一部変更するなどしてできるだけ集中的に焼却炉を稼働することにより、約2.1万kW電力供給を増やします。
- 3 焼却調整 期間：8月初頭（電力需要が大きい時期に合わせて変更することがあります。）
1日のうちで焼却量を調整するなどして電力需要ピーク時間に合わせ約1.5万kW電力供給を増やします。

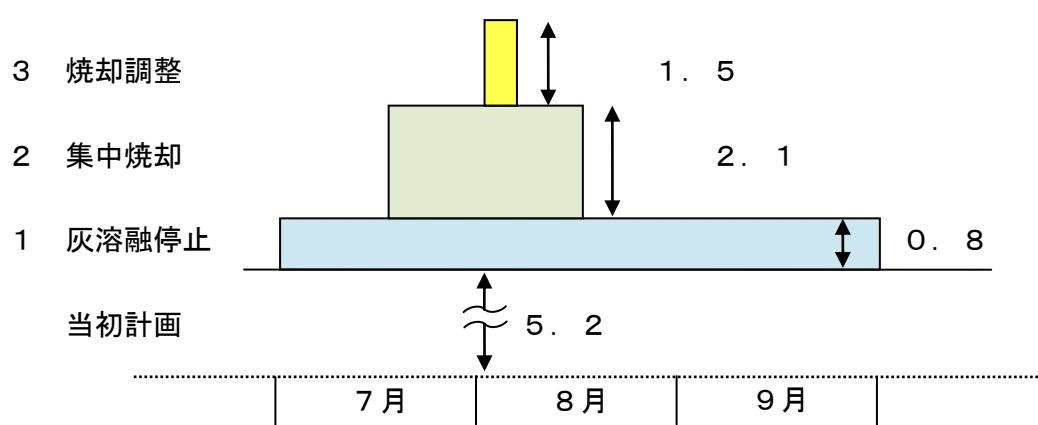


図 今夏の電力供給見込み（万kW）